

令和5年度 事後評価シート

【事務事業シート（政策的経費）】

1	当初	事項	えひめ情報リテラシー向上事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	児童生徒が主体的に情報等を選択・活用する能力を育成するため、小中学校を対象とした学習用アプリを活用し、定期的に更新する。								始期	R2
										終期	R7
	K P I	ネットトラブルにあっていない児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 4年度	時点・期間	R 5年度	時点・期間	R 6年度	時点・期間	R 7年度	時点・期間	R 8年度
		現状値	89.4 %	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %	目標値	93.7 %
				実績値	88.5 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	94.45 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	3,234 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			3,234 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>現在、ほとんどの児童生徒がインターネットを利用できる自分専用の機器を所持しており、1日当たりの平均利用時間は、昨年度と比べ長時間化している。想定以上に利用頻度が高まっていることに加え、利用目的も多岐にわたっているため、トラブルに遭う機会が増加したことが、目標達成に至らなかった要因と考えられる。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度の目標達成率は、想定よりも低調であったものの、94%を超えており、授業等において児童生徒が当事者意識をもって学習に取り組めるよう、テーマ設定を行うとともに、利用促進を図ることにより、6年度以降にKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>								
2	当初	事項	えひめ版学力向上推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	県独自で開発したCBTシステムの更なる利活用や児童生徒の資質・能力の育成につながる授業改善を推進し、学力の底上げや授業の理解度をはじめとする本県の学びの課題を克服する。								始期	R3
										終期	
	K P I	ICT機器の活用は勉強の役に立つと思う児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 4年度	時点・期間	R 5年度	時点・期間	R 6年度	時点・期間	R 7年度	時点・期間	R 8年度
		現状値	93.4 %	目標値	97 %	目標値	97 %	目標値	97 %	目標値	97 %
				実績値	94.3 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	97.22 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	49,391 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			48,684 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>3年度に全国に先駆けて開発した県独自のCBTシステムを県内の全公立小中学校で日々の小テストやドリルにおいて活用することで、児童生徒の「個別最適な学び」の実現と教員の業務負担縮減に一定の成果を上げることができたものの、活用率が低い学校もあるため、目標達成には至らなかった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度の目標達成率は、想定よりも低調であったものの、97%を超えており、今後更に研修等を通じて全県で取組を推進し、授業改善を図ることにより、6年度以降にKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

3	当初	事項	情操教育推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	知性と感性の調和がとれた発達を目指し、心身ともに健全な児童生徒を育成するため、各種事業を実施する。								始期	S42
										終期	
	K P I	「とても有意義な事業であり十分満足していた」と回答した児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	R5より調査 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
				実績値	78 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	78.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	936 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	598 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>情操教育について、音楽家の派遣事業等、本物の芸術に触れる機会の充実を図ったものの、事業への満足度については、児童生徒の経験や興味関心に個人差があることから、目標達成には至らなかった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	改善	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度の目標達成率が想定よりも低調であったことを踏まえ、現行の実施回数等を維持しつつ、開催時期や開催内容について、更に工夫・改善を図っていく。（R6年度執行に反映）</p>								

4	当初	事項	愛ある愛媛の道徳教育推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を推進するため、実践研究を行う。								始期	H21
										終期	
	K P I	「道徳」の時間がためになると思っている児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	67.2 %	目標値	68 %	目標値	68 %	目標値	68 %	目標値	68 %
				実績値	60.2 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	88.53 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	7,285 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	5,790 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>研究推進校を指定し、研究実践を行い、学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を推進したものの、研究推進校としての指定が1年目ということで、取組の質的な深まりが十分ではなかった可能性があり、目標達成に至らなかった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度のKPIの実績は、目標値に7.8ポイント及ばなかったものの、「道徳」の時間への意識は高まっており、本事業を継続し、事業の内容の一層の充実を図ることにより、6年度以降にKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

5	当初	事項	環境教育推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	産業廃棄物の排出抑制と減量化、資源の循環的な利用についての理解を深めるため、研究指定校を指定し、研究実践を行う。								始期	H20
										終期	
	K P I	環境教育研究推進校のうち、環境に対する意識が高まった児童生徒の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 4年度	時点・期間	R 5年度	時点・期間	R 6年度	時点・期間	R 7年度	時点・期間	R 8年度
		現状値	94.9 %	目標値	95 %	目標値	95 %	目標値	95 %	目標値	95 %
				実績値	94.5 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	99.47 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト			最終現計予算額	1,006 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
		決算額	1,006 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>研究推進校を指定し、研究実践を行ったことで、環境について学習することは大切であると回答した児童生徒が98.6%いるものの、研究推進校としての指定が1年目ということで、取組の質的な深まりが十分ではなかった可能性があり、目標達成には至らなかった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度のKPIの実績は、目標値に0.5ポイント及ばなかったものの、1年間で環境教育への意識は高まってきており、本事業を継続することにより、6年度以降にKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

6	当初	事項	科学の甲子園ジュニア県代表選考事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	中学生が科学を学ぶ楽しさ・意義を実感できる場を提供し、理数教育の充実を図る。								始期	H25
										終期	
	K P I	大会後の参加者アンケートにおける「科学技術に関する学習意欲」の肯定率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R 4年度	時点・期間	R 5年度	時点・期間	R 6年度	時点・期間	R 7年度	時点・期間	R 8年度
		現状値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %	目標値	85.9 %
				実績値	93.5 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	108.85 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト			最終現計予算額	1,079 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
		決算額	678 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度のKPIの実績は目標に達しており、目標達成率が108.8%と極めて高い成果が出ている。中学生が科学を学ぶ楽しさ・意義を実感することができる本事業を継続することにより、6年度以降もKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

7	当初	事項	英語授業力強化推進事業費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	学校の指導体制構築及びICT機器を活用した授業改善を推進し、教員の指導力及び児童生徒の英語力向上を図る。								始期	R2
										終期	R5
	K P I	授業の半分以上の時間を児童生徒の英語による言語活動時間としている学校の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R 5 年 度	時点・期間	R 6 年 度	時点・期間	R 7 年 度	時点・期間	R 8 年 度
		現状値	84 %	目標値	84 %	目標値	84 %	目標値	84 %	目標値	84 %
				実績値	88.3 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	105.12 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト			最終現計予算額	2,111 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額
			決算額	0 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。） 国事業の不採択により、十分な事業を実施できなかったが、文部科学省が実施する「先導的なオンライン研修実証事業」を活用し、児童生徒の英語力の底上げや、教師の指導力・英語力向上の機会の確保に努めた。6年度以降は、新規事業により、対話型AIアプリの試験導入や学習成果確認テストの作成・実施、授業改善を図るための研修会など、更に先進的な取組を推進する。</p>									
	見直し方向性	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））									

8	当初	事項	N I E 全国大会松山大会開催費							予算主管課	義務教育課
	事業概要	第28回NIE全国大会松山大会を開催する。								始期	R5
										終期	R5
	K P I	N I E 全国大会に参加した学校の割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	-	目標値	80 %	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	40.1 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	50.13 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト			最終現計予算額	1,000 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額
			決算額	1,000 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） 開催日が他の研修会と重なるなど、参加できない学校や教員が多かったため、目標達成には至らなかったが、参加人数としては400人を目標としていたところ、県内の小中学校の教員が453人参加したことで、一定の成果を得られた。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。） NIE全国大会の開催を通して、学校全体で新聞を活用する機会が増え、日常的に新聞を読む子供の増加が期待できる。また、大会後も各学校で愛媛新聞forスタディ（@スタ）を積極的に活用し、取組を継続させることで、多面的・多角的に考察する力の育成につながっている。今後、更に新聞の効果的な活用方法について、ICT機器の活用も視野に入れた取組を推進する。</p>									
	見直し方向性	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））									